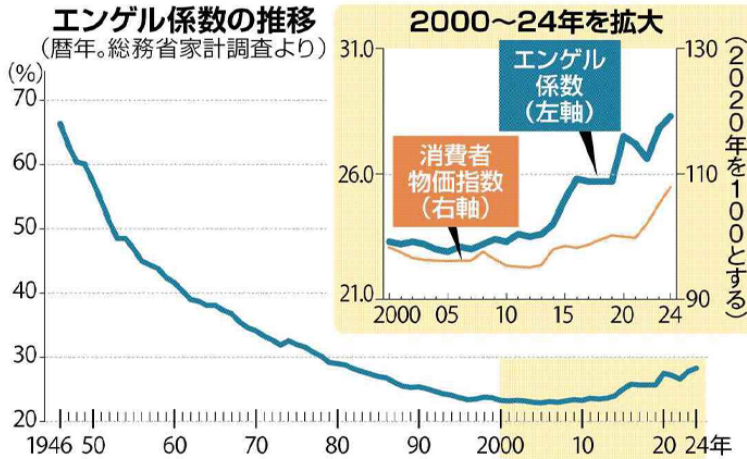




年 組 名前

道新ワークシート



消費者は、もっと怒るべきでは。2倍に跳ね上がった米価のことです。大正の米騒動は米価が2倍になって爆発しました。当協会は全国消費者協会連合会を通じて、5月に石破茂首相らに米価引き下げを重ねて要請しました。

* 武野 伸二



エンゲル係数と三つの危機

米価高騰 家計はもう限界

いま三つの危機感をもっています。一つは家計の危機です。家計の消費支出に占める食費の割合をエンゲル係数と呼びます。総務省家計調査によれば、戦後しばらくは50%を超えていた「Uグラフ」。くらしが豊かになると数字は低下しましたが、昨年は28・3%に上昇し1981年以来、43年ぶりの高さです。

グラフの拡大部分をご覧ください。消費者物価に連動してエンゲル係数は急上昇しています。

「原材料や人件費が高騰したのだから価格転嫁は当然」と言われます。しかし、生産者から卸、小売りという価格転嫁のリレーで言うところ消費者は最終走者で、転嫁のバトンはまだだれにも渡せません。賃金や年金は頭打ちなので、多くの家計は限界を迎えています。

二つ目は生産者への共感の危機です。「輸入米でいい」「コメでなくてもいい」

と、 離れを招きかねません。安全安心な食料生産を担う国内農家が持続可能であるには一定の価格転嫁はやむを得ず、国の所得補償も必要だと考えます。しかし、そうした共感にも限界があります。

三つ目は農政への信頼の危機です。今回の米騒動で農林水産省は当初、南海トラフ地震報道を受けた消費者の過剰買いを指摘し、やがて流通業者の売り渋りに責任転嫁しました。

火消しに繰り返し出した備蓄米は高値をつけた業者が落札する仕組みです。価格引き下げを図るなら、当初から入札に上限価格を定めるなどすべきでした。

食は命の源です。随意契約による備蓄米の店頭販売が道外で始まりましたが、農水省はもっと、庶民感覚に寄り添ってほしいものです。

(北海道消費者協会 専務理事)

2025年 6月3日(火) 朝刊 全道版 13ページ (記事は再編集しています)

(1) ——線「当協会」とありますが、この協会の正式な名称を書きなさい。

(2) に入る言葉として最も適当なものを一つ選びなさい。

ア. 米 イ. 米食 ウ. 国産米 エ. 原料米

(3) 記事とグラフの読み取りとして最も適当なものを一つ選びなさい。

ア. エンゲル係数は、2000年代に入っても下がり続けている。

イ. 近年エンゲル係数が上がったのは、消費者物価と連動しているからだ。

ウ. 米価が下がれば、他の食品が高騰してもエンゲル係数は下がる。

エ. エンゲル係数を下げるためには、食費の割合を上げる必要がある。